

## 〔テーマ〕

## 基準Ⅱ-A 教育課程

- (a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

平成 22 (2010) 年度に、「学則」に基づき、学習成果に対応するかたちで、各学科の学位授与の方針を策定した。卒業の要件及び資格取得の要件は、「学則」に明確に記している。これまで成績評価の基準は必ずしも明確ではなかったが、平成 24 (2012) 年度にあらためて確認し、平成 25 (2013) 年度の学生便覧 (Campus Guide) に明確に示している。学位授与の方針は本学ホームページ上でも公開しており、学内外に表明している。卒業生の進路先からの評価によると、本学卒業生の仕事に取り組む姿勢は良好であり、本学の学位授与の方針は社会的に通用性があると考えられる。また、方針の内容は、各学科や自己点検・評価室が定期的に点検している。

平成 22 (2010) 年度には、学位授与の方針に基づき、各学科の教育課程編成・実施の方針も策定した。また、これらの方針に基づき、各学科では学習達成目標を定め、個々の科目については「修学中に習得すべき知識・能力に関する情報」や「履修モデル」で分かりやすく体系的に編成して示している。成績評価は一定の基準を設け、担当教員が責任を持って厳格に適用している。科目概要 (シラバス) には、授業の目的・テーマ、授業の達成目標・到達目標、授業内容・計画、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書を明示している。通信による教育は行っていない。教員の配置は、規程に従い、教員資格審査委員会で専門分野や教育歴、実務経験等を勘案して計画的に行っている。教育課程の見直しは、各学科で定期的に行っているほか、「専任教員・非常勤講師懇談会」を実施し、非常勤講師から聴取する意見も見直しに活かしている。

各学科の入学者受入れの方針は、学習成果に対応した方針として、募集要項や本学ホームページ上に示している。これらの方針には、入学前の学習成果を把握・評価するため、入学前に必要な学習の方向性も明示している。入試種別は多様であるが、それに応じて入学者選抜の方法も多様である。いずれの選抜方法も、これらの方針に基づき、設定している。

学習成果の査定は、各学科が、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針に基づき、「学習評価シート」を作成し、活用している。「学習評価シート」には、人間性、社会性、専門性の 3 領域に分かれた達成目標が具体的に示されている。各学期末に、クラス担任はこのシートを用いて学生面談を行う。学生は自己評価でそれぞれの達成度を確認し、次学期に向けての目標を設定する。これによって学習意欲の向上を図っている。学習成果は、在学中に資格取得や検定合格等が数多く達成されており、一定期間内で獲得可能と判断できる。卒業生の進路先からの評価によると、本学卒業生の仕事に取り組む姿勢は良好であり、学習成果の実践的な価値は高い。学習成果の測定は、各学期末に各科目の内容や実施方法の有効性を確認するため学生を対象に実施する「授業に関するアンケート」や、卒業直前の学生に対して学生生活全般の満足度を問う「学生

生活満足度調査（卒業アンケート）」、「1年次学生生活満足度調査」のなかで実施している。

卒業生の進路先からの評価として、これまで「リカレント教育」、「学生・現職合同研修会」や、キャリア教育に関する授業等において、進路先から企業人を講師招へいする際に、都度、聴取を行っている。また、平成24（2012）年度は、過去3年のおもな就職先から、現在の就職状況、入社時までに本学で習得した知識・技能等で役に立ったと思われる点、今後本学で卒業までに習得させた方がいいと思われる知識・技能等について聴取を行った。これらの結果は、「学習評価シート」の達成目標を定めるにあたって参考にしている。

(b) 自己点検・評価を基づく改善計画を記述する。

今後、GPAを利用した厳格な成績管理・成績評価を検討する。また、学習成果の質的・量的データの測定はいまだ不十分であり、より有用な「学習評価シート」の作成・導入を図る。そのほか、より厳格な成績評価を行うため、現在採用している4段階評価の見直しを図る。「学習評価シート」の活用方法も見直し、同時に、教員の指導能力の向上も図る。

【区分】

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

「学則」第20条第3項において、学位の授与に関して必要な事項は別に定めると規定している。この規定に基づき、各学科の学位授与の方針を、平成22(2010)年度に、教授会の議を経て【備付資料：No.91】次のとおり策定した。

【幼児教育学科 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)】

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を育成することを教育目的とします。

この教育目的に従い、幼児教育学科では、幼児教育における高い専門性を身につけると同時に、幅広い教養と社会性を兼ね備えた保育者の育成に努め、社会の要請に応え得る人材の輩出を目指します。

この目的の実現のため、本学科の学生は卒業時までには次の内容を達成することが求められます。その上で、所定の単位を修めることにより卒業を認定し、学位を授与します。

1. おもに将来の保育者としての実務展開を念頭に置いた「一般教育科目」の修得を通じて、保育実践への幅広い教養を身につけ豊かな人間性を養い、同時に社会人として必要な倫理観や正義感を培うこと。
2. 各種専門科目の修得を通じて子ども観・保育観を醸成し、子どもとの関わり、子育て支援に向けた学科の修学理念を理解しつつ、幼児教育者としての「人格」「知識」「技術」を身につけること。また、それらを通じて、幼子の成長を目の当たりにする機会を基盤に、人間性向上への意識高揚を図り、社会人としての成長の道程となるべく学習を追究し真摯に取り組むこと。
3. 演習、実習、特化教育等の現場体験を通じて、幼児教育の本質をより深く理解すると同時に、思考の柔軟性と研究への意欲、実践の展開力と協働意識、就業における使命感と責任感を養うこと。

【美術学科 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)】

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成することを教育目的とします。

この教育目的に従い美術学科では、美術造形教育により芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力と健全な社会人としての能力を備えた人間の育成を目的とします。

この目的の実現のため、本学科の学生は卒業時までには次の内容を達成することが求められます。そのうえで、所定の単位を修めることにより卒業を認定し、学位を授与します。

1. おもに「一般教育科目」の修得を通じて、現代社会において求められる基礎的事項を習得するとともに、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を養い、同時に社会人として必要な倫理観や正義感を培うこと。

2. おもに「美術学科専門科目」の修得を通じて、美術に関する理解を深め、加えて様々な美術的表現技術を磨くことによって、豊かな表現能力を身につけること。また、単に技術の修得にとどまらず、美術を通じて人生設計を考え自活意識を高めること。
3. 2年間の学習の集大成としての「卒業制作」を通じて、自己表現を深化させるとともに、自発的な意欲や思考の柔軟性と耐久力、客観的な審美眼を養うこと。

【ビジネス実務学科 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)】

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成することを教育目的とします。

この教育目的に従いビジネス実務学科では、幅広い教養と社会性および実務的な技能を身につけ、キャリア形成に関する高い意識をもって変化するビジネス社会に対応し、地域に貢献できる人間の育成を目的とします。

この目的の実現のため、本学科の学生は卒業時までには次の内容を達成することが求められます。そのうえで、所定の単位を修めることにより卒業を認定し、学位を授与します。

1. おもに「一般教育科目」の修得を通じて、現代社会において求められる基礎的事項を習得するとともに、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を養い、同時に社会人として必要な倫理観や正義感を培うこと。
2. おもに「ビジネス実務学科専門科目」の修得を通じて、簿記会計や経済に関する理解を深め、加えて IT 技能や文書作成能力およびビジネスマナーといった実務的な技能を身につけること。また、単に就職を目指すだけでなく、生涯を通じた人生設計を考える自立的なキャリア意識を高めること。
3. 2年間の学習の集大成としての「ゼミナール」を通じて、ビジネス実務に関する学芸を深化させるとともに、自発的な意欲や思考の柔軟性、心身の耐久力や客観的な判断力を養うこと。

学位の授与は、「学則」第 20 条第 2 項において、卒業者に「短期大学士の学位を授与する」と規定している。さらに「金城大学短期大学部学位規程」第 2 条で、専攻分野の名称を付記し、「短期大学士 (幼児教育)」、「短期大学士 (美術)」、「短期大学士 (ビジネス実務)」を授与するものとしている。

各学科の学位授与の方針に記載の卒業の認定要件は、「学則」第 18 条で次のとおり規定している。

(卒業の要件)

第 18 条 本学を卒業するためには、学生は 2 年以上在学し、次の 1 号から 3 号により、64 単位以上を修得しなければならない。

- (1) 一般教育科目および外国語科目 計 10 単位以上
- (2) 保健体育科目 講義 1 単位 実技 1 単位 計 2 単位
- (3) 専門教育科目 幼児教育学科、美術学科、ビジネス実務学科ともに 計 52 単位以上

- 2 特例科目の修得単位については、4単位を超えない範囲で前項の一般教育科目の単位を修得したものとみなすことができる。

なお、第2項の特例科目とは、「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」（各2単位）で留学生を対象として開講する科目である。

単位の修得にかかる成績評価の基準は、従来、内規に規定していたが、平成24（2012）年度にあらためて教授会の議を経て、統一化・明確化を図った。また、各科目の成績評価基準は科目概要（シラバス）【提出資料：No.7・8・17・18】に記載している。

資格の取得に関しては、「学則」第19条で次表のとおり規定し、幼児教育学科の学位授与の方針に従って卒業の要件を充足した者が、所定の単位を修得することで取得できる、と定めている。

(資格の取得)

第19条 教育職員免許状を得ようとする者は、前条に規定する卒業の要件を充足し、かつ教育職員免許法の規定により、所定の単位を修得しなければならない。

- 2 本学幼児教育学科において保育士の資格を得ようとする者は児童福祉法の規定により、所定の単位を修得しなければならない。
- 3 本学の各学科において取得できる免許の種類および資格は次のとおりとする。

幼児教育学科 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格

各学科の学位授与の方針は、本学ホームページ上の「情報公開」ページにおける「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」のなかで公開し、学内外に表明している。また、学生に対しては、配付冊子【提出資料：No.6】に記載するとともに、各学科とも1年前期ガイダンス時に解説説明し、周知している。

卒業生の進路先からの評価【備付資料：No.22】によると、本学卒業生の仕事に取り組む姿勢は概ね良好であり、本学の学位授与の方針は社会的にも通用性があるものと考えている。

定期的な点検は、各学科や自己点検・評価室で実施しており、改正の必要があるときは、教授会に諮る体制を有している。

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。  
特になし。

**基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。**

- (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

各学科は、それぞれの学位授与の方針に基づき、平成 22（2010）年度、教授会の議を経て教育課程編成・実施の方針を次のとおり策定した。

**【幼児教育学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】**

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を育成することを教育目的とします。

この教育目的の実現のため幼児教育学科では、幼児教育における高い専門性を身につけると同時に、幅広い教養と社会性を兼ね備えた保育者（幼稚園教諭及び保育士）の育成に努め、社会の要請に応え得る人材の輩出を目標として、次の方針でカリキュラム編成を行います。

- (1) 専門教育を理解するための基盤となる学習方法の確立と基礎学力の習得を図る。
- (2) 社会性を大切に幅広い教養を身につけ、保育者としての資質の向上を目指す。
- (3) 幼児教育・保育・福祉現場に必要な専門知識の深化と技術の習得に向けた学習の充実を図る。
- (4) 演習、実習、現場参加を積極的に展開し、実践力や自己表現力を高める。
- (5) 4分野に特化された「特化教育」を展開し、個性の尊重と協働性を高めさらなる専門性の上積みを目指す。
- (6) 保育者としての高い意識と使命感を育み、実践のために必要な資格や免許取得を目的とした学習を行う。

**【美術学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】**

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成することを教育目的とします。

この教育目的の実現のため美術学科では、美術造形教育により芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力と社会人としての能力を備えた人間の育成を目標として、次の方針でカリキュラム編成を行います。

- (1) 専攻する美術分野の専門技術及び知識を高める。
- (2) 美術表現において、独自の表現スタイルの確立を追求する。
- (3) 身につけた専門技術及び知識を、社会に活かす方法を模索する。
- (4) 美術についての幅広い基礎知識を習得する。
- (5) 社会人としての幅広い教養を身につける。

**【ビジネス実務学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】**

金城大学短期大学部は、専門的な知識技能を身につけ、円満な人格と豊かな情操を持ち、社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成することを教育目的とします。

この教育目的の実現のためビジネス実務学科では、幅広い教養と社会性および実務的な技能を身につけ、キャリア形成に関する高い意識をもって変化するビジネス社会に対応し、地域に貢献できる人間の育成を目標として、次の方針でカリキュラム編成を行います。

- (1) 幅広い教養を身につける。
- (2) 専門教育を受けるための基盤となる基礎的な学力および学習方法を習得する。
- (3) 地域の産業や社会の要請についての理解を深める。
- (4) 自立意識、キャリア意識を高める。
- (5) 社会で必要とされる知識と技能を身につける。
- (6) 各種資格取得に対応できる学習を行う。

これらの教育課程編成・実施の方針に従い、各学科では学期ごとの学習達成目標を次表のとおり定め、学習成果と対応させている。【提出資料：No.6】また個々の授業科目は、「修学中に習得すべき知識・能力の関する情報」及び「履修モデル」で体系的に示し、分かりやすく編成している。【提出資料：No.13】

各学科の学期ごとの学習達成目標

	幼児教育学科	美術学科	ビジネス実務学科
1年前期	保育者としての基盤をつくる。	美術の基礎を学び、表現の幅を広げ、自分の適性を見極める。	社会で必要とされる知識と技能を身につけるとともに、幅広い教養を身につけ、自立意識・キャリア意識を高める。
1年後期	子ども観・保育観の醸成と保育現場での保育実践に向けての課題に向き合う。	コースに分かれ、基礎的・全般的な課題制作を通じてそれぞれの分野の基礎を習得する。	ひきつづき、社会で必要とされる知識と技能を身につけるとともに、コース・プランによる選択科目で、ビジネス実務の専門知識の導入を学ぶ。
2年前期	保育現場での教育・保育実践に向けての課題に向き合い、現代社会から求められている保育者像に迫る。	作品制作にはげみ、公開オーディションや合評会での発表を通じて研鑽を積む。	各コース・プランで専門的な知識を学んでいく。その中で、自立意識・キャリア意識をさらに高めていく。
2年後期	卒業後の保育現場での実践に向けての課題と社会における保育的課題に向き合う。	学修の集大成として卒業制作を完成させる。	2年間の集大成として、ゼミナールの発表会に臨むため、さらなる専門知識・技能を学んでいく。また、幅広い教養も継続して学んでいく。

成績評価は、全科目を通じて「優」（100～80点）、「良」（79～70点）、「可」（69～60点）、「不可」（59～0点）としている。この点数は定期試験の点数のみではなく、各科目で提示される成績評価方法による総合評価の点数である。

【提出資料：No.7・8・7・18】点数の算出及び成績評価は、各科目担当教員が、責任を持って厳格に適用している。「履修カルテ」や「保育力向上確認シート」（幼児教育学科）、「学習自己評価シート」（美術学科）、「学習評価確認シート」

(ビジネス実務学科) といった、学生自身が学習状況を自己評価する表も活用しており、これらを通じて質的データを測定し、教育の質保証を図る取組も行っている。

科目概要(シラバス)には、授業の目的・テーマ、授業の達成目標・到達目標、授業内容・計画、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書が明示されている。【提出資料：No.7・8・7・18】なお、本学では通信による教育は行っていない。

教員配置について、本学は、開学以来、学科名(秘書学科からビジネス実務学科へ)やコース名などの変更はあったが、専門分野の変更を伴うような組織改編は行っていない。また、学生定員も臨時定員の一部削減のみで、大幅な変更はない。このため、勤務年数の多い教員も専門分野を逸脱することなく、変化する授業内容に対応してきている。専任教員や非常勤講師の新たな採用では、教員資格審査委員会で専門分野や教育歴、実務経験等を勘案して計画的に行っている。これらの結果として、各教員に適正な授業科目と持ち時間数が配当されている。

教育課程の見直しについては、事業計画のなかに項目を掲げ、定期的に行っている。【提出資料：No.33】また、各学科では、毎年数回、「専任教員・非常勤講師懇談会」を開催しており、授業内容や学生の学習状況を振り返るとともに、教育課程の改定についての意見交換も行い、教育課程の見直しに活かしている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

本学において、GPAは卒業時の優秀者表彰選定資料として使っているだけであり、成績管理・成績評価には活用していない。また、学習成果の質的・量的データの測定は導入後間もないこともあり、いまだ不十分である。そのほか、成績評価は現在「優」、「良」、「可」、「不可」の4段階評価としているが、検討の余地がある。

**基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。**

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学は、「遊学の精神の涵養」と「良妻賢母の育成」という学園の建学の精神を基本理念として、学生一人ひとりの個性を伸ばす「手づくりの温かさを持った教育」と、「金城から地球を歩こう」という地球規模の考え方を示す教育を、設立の理念としてスタートしている。【提出資料：No.1】これらの理念に従い、円満な人格と豊かな情操を養い、もって社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成し、併せて有能な職業人としての資質を養うことを教育目的としている(「学則」第1条)。

本学では、これらの建学の精神、設立の理念、教育目的を理解し、明るく素直で、幼児教育と福祉、美術、ビジネスの分野で自ら挑戦できる人物を入学者として求め、本学全体の入学者受け入れの方針としている。各学科の入学者受入



れの方針は、次のとおりである。

**【幼児教育学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】**

卒業時には、全員が保育士資格とともに幼稚園教諭免許のダブル取得を目指します。今、保育の世界では乳児・低年齢児保育、障害児保育に精通した人材、地域における子育て支援の企画力を持った人材、音楽・美術などによる情操教育につながる力量をもち実践できる人材が求められています。

本学では、そのような要請に対応し①乳児保育、②障害児保育、③音楽、④美術というそれぞれの方向について、従来のカリキュラムにさらに「特化教育」を加え、スペシャリストとしての能力を身につけた保育人材を養成します。そのためには、高校における基本的な学習の習得に励むことを大切にして下さい。

**【美術学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】**

美術学科では入学後、自分の適性を再確認し、無理なく段階的に基礎的な造形力が身に付くよう、1年前期の「基礎演習」で全てのコースを体験します。

高校における基本的な学習に励むことも大切であり、美術の授業や美術関係の塾などでデッサン等、美術の基礎を習得しておくこと入学後の専門内容への取り組みがさらに容易になります。

子どものころから描くことや物づくりをすることが大好きだった皆さんを、地域に根ざした美術家（画家、工芸家、デザイナー、マンガ家、メディアアーティストなど）として、さらには世界に羽ばたくアーティストとして育てるのが本学科のポリシーです。

**【ビジネス実務学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】**

ビジネス実務学科では、企業で求められる対人スキルなどのビジネスマナー、企業会計に必要な簿記会計、表計算やプレゼンテーションなどの基礎的なパソコン操作、英会話などを2コース5プラン全てで学んでいきます。さらに、上級ビジネス実務士、上級情報処理士、上級秘書士や観光ビジネス実務士などの称号も単位の履修状況によって卒業と同時に取得できるのに加え、多くのビジネス系資格について皆さんの習熟度に合わせた講座を受講・受験できるよう充実したサポート体制が整っています。そのため、あらゆるビジネスシーンに対応できる高いビジネス実務能力が身につけていきます。これらのビジネス基礎力の土台の上に各専門2コース（5プラン）の内容を習得することによって、活力のある優れたビジネスワーカーを育成するのが本学科の目的です。

本学科で学ぶためには、高校で各学科の基本とする科目をしっかりと習得していただくことが大切です。また、余力があれば高校時代に実用英語検定や漢字検定などの検定取得に取り組むことにより、入学後の各種ビジネス系検定取得へ向けて基本姿勢が備わってきます。

これらはいずれも各学科の学習成果に対応した方針となっている。また、入学前の学習成果を把握・評価し、必要な学習の方向性も明示している。

本学の入学試験は、「AO入試」、「学校長・専門総合学科推薦入試」、「学修支

援奨学生推薦入試」、「自己推薦入試」、「学修支援奨学生一般入試」、「一般入試・センター試験利用入試（A日程、B日程、C日程）」と多様である。それぞれの入学試験における入学者選抜方法の概要は次表のとおりである。

各学科の入学試験ごとの入学者選抜方法

	幼児教育学科	美術学科	ビジネス実務学科
AO入試	面接（2回以上） 簡単な学力テスト	面接（2回以上） 簡単な学力テスト	面接（2回以上） 簡単な学力テスト
学校長・専門総合学科 推薦入試	面接	面接 実技又は作文	面接
学修支援奨学生推薦 入試	面接 基礎学力試験	面接 基礎学力試験 実技	面接 基礎学力試験
自己推薦入試	面接 作文	面接 適性テスト	面接 作文
学修支援奨学生一般 入試	面接 筆記試験	面接 筆記試験 実技	面接 筆記試験
一般入試・センター試 験利用入試（A日程）	面接 筆記試験	面接 実技又は 筆記試験と作文	面接 筆記試験
一般入試・センター試 験利用入試（B日程）	面接 筆記試験	面接 実技又は 筆記試験と作文	面接 筆記試験
一般入試・センター試 験利用入試（C日程）	面接 作文	面接 実技又は作文	面接 作文

各学科で、入学者受入れの方針に示している「高校における基本的な学習」の習得は、基礎学力試験や作文、筆記試験で確認している。また、すべての試験で面接を行っており、ここでも基本的な学力や各学科への適性・意欲を確認している。特に「AO入試」では、入学後のミスマッチを防ぐため、教員との面談を2回以上実施している。そのほか、美術学科では美術の基礎の確認のため、実技、適性テストを取り入れている。また、ビジネス実務学科では、検定取得状況を面接のなかで確認している。

これらの内容を含め、各入学試験の選抜方法・基準を募集要項【提出資料：No.15】や本学ホームページに明示している。

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。  
特になし。

**基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である。**

- (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

学習成果の査定について、各学科が、学位授与の方針と教育課程編成・実施

の方針に基づき、「学習評価シート」を作成し、活用している。【提出資料：No. 10・11・12】概要は次表のとおりである。

各学科が活用する「学習評価シート」の概要

		幼児教育学科	美術学科	ビジネス実務学科
学習評価シートの名称		保育力向上確認シート	学習自己評価シート	学習評価確認シート
達成目標の項目	人間性	自己理解 向上心	自己理解 向上心	自己理解 向上心
	社会性	表現力 人間関係力 常識・教養	常識・教養 対人関係 将来設計 社会貢献	表現力 人間関係力 常識・教養
	専門性	使命感 子ども理解 教育・保育構想力 教育・保育実践力	専門知識 描写力 技術力	ビジネス実務の基礎 「ホテル&観光ビジネスコース」または 「ビジネスキャリアコース」の各プラン (金融実務、医療秘書、情報ビジネス、 公務員・編入学、ビジネス総合)の専門知識
自己評価の段階		6段階	4段階	4段階

「学習評価シート」には 10 項目以上の達成目標が記されている。達成目標は、人間性、社会性、専門性の 3 領域に分かれている。また、科目ごとに達成目標も設定されている。学生は、各学期の終了時に、それぞれの達成目標について、達成度の自己評価を行う。自己評価は 4～6 段階で判定する。「学習評価シート」は、クラス担任が学生と面談する際に用い、次学期に向けての目標を設定させながら学習意欲の向上を図っている。

「学習評価シート」のなかで、それぞれの達成目標は具体的に文章で示されており、学習成果には具体性がある。また達成目標を設定する際、いずれも達成可能なものとなるよう精査して作っており、実際に、学生の自己評価を見ると、まったく達成されなかった項目はない。学習成果の獲得は、在学中に目指す資格取得や検定合格率の高さから、一定期間内で獲得可能であると判断できる。【備付資料：No.15】学習成果の実際的な価値については、卒業生の進路先からの評価【備付資料：No.22】として、本学卒業生の仕事に取り組む姿勢は概ね良好であることから、価値は高いといえる。学習成果の測定については、各科目の内容や実施方法の有効性を確認するため各学期末に学生を対象に実施する「授業に関するアンケート」や、卒業直前の学生に対して学生生活全般の満足度を問う「学生生活満足度調査（卒業アンケート）」の中で、学習成果を問う質問項目を設定し、測定している。【備付資料：No.23・24】また、平成 24（2012）年度は一般財団法人短期大学基準協会が実施する調査にも参加してお

り、そのなかで、知識・技能の獲得についてその変化状況を問う質問について、多くの学生が変化を自覚する結果が得られていることから測定可能であるといえる。【備付資料：No.21】

「学習評価シート」のほか、幼児教育学科では、特に教職課程に関係する科目についての学習成果を査定するために、「履修カルテ」を活用している。【備付資料：No.16】ここには科目ごとに特に達成したい目標が3項目提示されている。これらの項目は、実習評価とリンクするよう保育現場との連携によって定めているため、学習成果には実際的な価値がある。学生は各学期末にそれぞれの項目について6段階で自己評価を行う。これによって授業を振り返り、課題を見出して、次学期の目標を設定する。この「履修カルテ」を通じて、学生は教育・保育の実践力向上を図っている。

また美術学科では、「公開オーディション」や「合評会」において、課題制作を通じた学習成果を査定するために、「オーディションシート」や「演習成果シート」を活用している。【備付資料：No.17】課題制作物の質、アイデア、努力、個性、表現力などを評価項目としており、複数の審査員が評価を行い、評価結果は学生に渡される。学生は過去の評価結果と比較することができ、自己の学習成果の積み上げを確認することができる。学生はこれらの課題制作物を各種公募展などに積極的に出品し、多様な分野で入賞している。【備付資料：No.19】このことから学習成果には実際的な価値があると判断できる。

また、ビジネス実務学科では、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」を必修にしており、「ゼミナールⅡ」の最後に全員が発表することを義務化している。この発表会は、「金城ビジネス学会」と銘打ち、学外関係者も聴講し、講評を得ることから実際的な価値がある。ビジネス実務学科全学生は、2年間の学びの集大成として発表活動ができること自体が学習の成果であるといえる。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

「学習評価シート」の活用は平成23(2011)年度後期に始まったばかりであり課題は多い。たとえば、学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針との関連性が学生に明確に伝わっていない、各科目に設定される達成目標の重みづけが感覚的なものとなっていて数値化されていない、クラス担任が「学習評価シート」を用いて面談をする際に学生によっては学習意欲の向上があまり認められない、などがあげられる。学習成果の査定に関しては、本学全体として査定のあり方をさらに検討していく必要がある。また同時に、教員の指導能力の向上も不可欠である。

**基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。**

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学では、卒業生が採用された企業や機関へ、クラス担任であった教員が採用のお礼訪問を行う際に、勤務状況などの卒業生評価も聴取している。平成2

4 (2012) 年度は、過去 3 年のおもな就職先から、現在の就職状況、入社時までに本学で習得した知識・技能等で役に立ったと思われる点、今後本学で卒業までに習得させた方がいいと思われる知識・技能等について、聴取を行った。

【備付資料：No.22】 概要は次表のとおりである。

過去 3 年のおもな就職先からの卒業後評価結果

	現在の就職状況	入社時までに本学で習得した知識・技能等で役に立ったと思われる点	今後本学で卒業までに習得させた方がいいと思われる知識・技能等
幼児教育学科	園児やその保護者、施設の入居者等と常にふれあいながら仕事をこなすコミュニケーション力が概ね良好である。主要なクラスを任せてもらうなどリーダー的存在になっている者も見られる。	手遊びや、パネルシアター、リトミック、音楽表現など。 「特化教育」で修得した専門性のある知識・技能。	園児への接し方に加え、その保護者や施設入居者などの大人へのしっかりとしたマナーで対応できる力。指導計画の作成、利用方法など。
美術学科	在学時にマスターしたデザイン力を基礎に、各種デザイン業務をこなしている。営業社員と直接コミュニケーションを図りながら仕事を進めるまでになっている。	Mac 操作などデザインスキル。	Mac 操作などデザインスキルや、自分で考える力など。
ビジネス実務学科	各事業分野の職種業務を着実にこなしている。特に、サービス業では顧客との良好なコミュニケーションを取りながら仕事を進めている。	Word や Excel などのオフィス系パソコン操作技能やビジネス文章作成力。ビジネスマナーを基にしたコミュニケーション力。職種に応じて簿記、医療事務などの資格。	左記の知識・技能に加え、職種に応じたプレゼンテーション力や英会話力、石川県内の地理知識など。

このほか、卒業後評価として、幼児教育学科では実習指導などで教員が保育現場を訪問する際、その園に就職した卒業生の状況について聴取している。さらに、本学が実施している「リカレント教育」や「学生・現職合同研修会」への参加者から卒業生の評価を聴取している。加えて、「出張講座」で保育現場を訪問する際にも、現場担当者から卒業後評価の確認を行っている。美術学科やビジネス実務学科では、キャリア教育の一環として実施している授業において、企業人を講師招へいする際、その企業に就職した卒業生の就職状況について、評価を聴取している。

卒業後評価として、進路先からだけでなく、卒業生自身の自己評価も随時、

聴取している。本学卒業生は、かつてのクラス担任であった教員をしばしば訪問している。その際、教員は本学における学習成果について尋ね、情報を収集している。また、幼児教育学科では、前年度卒業生を対象とした「フォローアップ講座」を開催しており、参加する卒業生から本学での学習成果について評価を聴取している。

これらの取組から得られた卒業後評価の情報は各学科に集約され、それぞれ「学習評価シート」の達成目標を定めるにあたって参考にしており、学習成果の点検に活用している。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。